

報告 (原著)

3, 4 か月児をもつ母親のインターネット利用実態と
愛着・母性意識との関連原納 彰子¹⁾, 遠藤 晋作²⁾, 堀田 法子³⁾

〔論文要旨〕

本研究は, 3, 4 か月児をもつ母親のインターネット利用の実態と愛着・母性意識の関連を明らかにすることを目的とした。対象は A 市 3, 4 か月児健康診査に来所した母親とした。自記式質問紙調査法とし, 属性, インターネット利用状況, インターネット依存度, 愛着, 母性意識を尋ねた。インターネット依存度テスト (IAT) の合計得点と属性・インターネット利用状況にはロジスティック回帰分析を行い, IAT と愛着・母性意識の関連には Mann-Whitney の *U* 検定を行った。質問紙は 247 人に配布し, 回収は 122 人 (49.4%), 有効回答率 97.5% であった。IAT 合計得点を依存度で分類すると, 平均的な利用者が 107 人 (89.9%), 問題が生じている利用者は 12 人 (10.1%) であり, インターネット利用に問題が生じている利用者は少なかったが, インターネット依存と関連する要因として「出産経験」「無料通話アプリ」「目的のない暇つぶし」「平均利用時間/日」が示された。また, インターネット依存は母性意識尺度の否定的側面において関連が見られた。インターネット依存は, インターネットが子育て生活と密着している現代の環境や, ストレスや暇つぶしに適するというインターネットの特徴が背景にあり, インターネット依存により, 母性意識の否定的感情を高めることがないよう, サポートが必要であると考えられる。

Key words : インターネット利用, 愛着, 母性意識, 母親, 乳児

I. 目 的

近年, インターネット利用者数は年々増加傾向にあり, 中でも 13 歳から 59 歳までは 9 割を超えており¹⁾, スマートフォンの普及によって, 自分の使いたい時にどこでもインターネットが使える環境となっている。よって, 子育て世代と呼ばれる母親の多くもインターネットを利用していると考えられる。

育児に関連したインターネットの利用には, さまざまな功罪がある。ソーシャルメディアを通じた母親同士の交流では, 同じ境遇の家族と経験や感情を共有し, 疾患や治療に関する情報を得ることに重要な役割を果たしている²⁾。さらに, 育児中の母親のストレス解消

法として「ネット」, 「メール」, 「ブログ」を選択した母親の割合は高く³⁾, インターネットの利用がストレス解消につながると考えている母親も多くいるほか, 母親自身が現在の状況を書き綴ることで自己理解につながる⁴⁾とされる。よって, 子育て中のインターネット利用が多くの特長を生み出していることがわかる。その一方で, インターネットは納得できる答えにたどり着けるまでに時間がかかり⁵⁾, コンテンツの充実により飽きが来ないなどの理由から長時間の使用になることから利用者にとって依存性が高いものであると言える。これらに加え, インターネットへの不適応や身体的な脆弱性に外的環境からのストレスが加わることで, インターネットへ依存しやすくなるのではないか⁶⁾

The Relationship between the Actual Status of Internet Use and Attachment and Maternal
Consciousness of 3-4 Months Old Children

Shoko Harano, Shinsaku Endo, Noriko Hotta

1) 旧 国際医療福祉大学成田看護学部 (前研究職)

2) 名古屋市立大学大学院看護学研究科 (研究職)

3) 旧 名古屋市立大学大学院看護学研究科 (前研究職)

[JCH-23-024]

受付 23. 9. 4

採用 24. 6. 4

との指摘もある。そのため、子育て中の母親は産後の身体的な負担を抱えていることに加え、育児不安やストレス、束縛感、孤立感を感じやすく⁷⁾、インターネットに依存しやすいのではないかと推測され、インターネットとの距離感が課題となる。

子育て期の中でも、特に生後3, 4か月児は、脳や感覚器官が成熟するにつれて外界の情報に対して自らの意思で反応することができるようになる時期であり、主な養育者に対して、反応を示す行動が増える。児にとって最も重要な他者は母親であることが多く、母親は、子どものサインを受け、適切な反応を返すことが子どもを快くさせようを知り、より一層のよい育児行動をとろうとする⁸⁾。母親による子どもへの愛着はこのような相互作用の中で触れ合いを通して形成される関係性であり、それにより子どもも母親に対する信頼感が育っていく。また、このような相互作用や育児経験を通して母親としての自覚である母性意識は発達・変容していく^{9,10)}。しかし、インターネット利用中は子どもに目が向かないと考える母親が多い¹¹⁾ことやインターネットへの依存はネガティブで非活動的な心理状態を起こす¹²⁾こともあると考えられる。そのため、この時期に重要な子どもの表情や反応をみながら話しかける機会を減らすことは、愛着という関係性や母親としての自覚といった母性意識の獲得に影響を及ぼす可能性がある。そこで、本研究では、3, 4か月児をもつ母親のインターネット利用と母性的な愛着・母性意識の関連について明らかにし、母子関係構築過程における適切なインターネット利用についての支援の一助とすることを目的とした。

II. 対象と方法

1. 用語の操作的定義

愛着：Muller¹³⁾が述べている定義を参考に「母親と乳児との間に発達し長期に持続するユニークな愛情関係」とした。

母性意識：花沢⁹⁾が述べている定義を参考に「母親になった女性の、自分は母である、あるいは母になったという『母親としての自覚』」であるとした。

愛着は関係性であり、母性意識は母親としての自覚であるとするため、両者は異なるものであるとする。

2. 研究対象者

人口構成・ネット環境ともに全国平均と大きな相違

がない中部地域にある人口230万人のA政令指定都市を調査地域とした。なお、A政令指定都市の中で年間の出生数は約20万人であり、市全体では約17万人が3, 4か月児健康診査（以下、健診とする）を受診している。調査協力の得られた保健センター2施設での合計受診人数の公式発表はないが、市全体の受診率から考えると例年約2,000人が受診していると予想される。本研究では上記保健センター2施設に健診目的で来所する母親を研究対象者とした。

3. 調査期間

令和元年5月～令和元年7月。

4. 調査方法

調査方法は自記式質問紙調査法である。研究目的に沿いG*Powerにてサンプルサイズを算出した結果、効果量をCohenのdより0.5とした場合、サンプルサイズは106人であったためアンケート配布の目安とした。協力保健センターの健診待ち時間に研究者が質問紙を247人に配布した。回収方法は、保健センター内に設置した回収ボックスへの投函、または、郵送法とした。回答の重複がないよう、配布時に研究対象者に確認した。

5. 調査内容

属性として、母親の年齢・出産経験・分娩様式・就業形態・最終学歴・家族形態、乳児の出生週数・出生体重・現在の体重を尋ねた。インターネット利用状況として、利用機器、利用目的、情報検索する際の内容・用途、利用中の状況、インターネット利用時間として過去3日間の平均利用時間/日を尋ねた。加えて、インターネット依存度、愛着、母性意識について回答を求めた。

6. 測定用具

i. インターネット依存度テスト (the Internet Addiction Test : IAT)¹⁴⁾

インターネット依存度テスト（以下、IATとする）はアメリカのKimberly Youngによって開発されたインターネットやテクノロジー依存の測定ツールであり、20項目の質問から成る。IATの合計得点を尺度開発者が規定する依存度で分類すると、20から39点までは平均的なインターネット利用者、40から69点はイ

インターネットによる問題有り, 70 から 100 点はインターネットが生活に重大な問題をもたらすとし, 治療の必要があるとされる。なお, 項目 6 の「インターネットをしている時間が長くて, 学校の成績や学業に支障をきたすことがありますか」に関して, 本研究の研究対象者が母親であり, 「学校の成績や学業」があてはまらないため「日常生活」へ変更した。本テスト使用に関しては日本語版を作成した国立病院機構久里浜医療センターに許可を得た。

ii. 母親の愛着尺度日本版¹⁵⁾

母親の愛着尺度原版 (Maternal Attachment Inventory : MAI)¹³⁾は Muller の開発した, 情意領域から愛着を測定する尺度である。日本版に関しては, 中島¹⁵⁾によって翻訳され妥当性が証明されている。定義は, MAI にもとづき, 回答は 4 件法で, 合計点を算出する。得点が高いほど母親の乳児に対する愛着が高いことを示す。本尺度使用に関しては日本語版を作成者の許可を得た。

iii. 母性意識尺度¹⁶⁾

大日向¹⁶⁾によって開発された, 母親役割の受容についての尺度である。母親役割の受容について, 積極的に肯定的な感情 (MP 尺度) と消極的で否定的な感情 (MN 尺度) の 2 側面から測定する。回答は 4 件法で, 単純加算したそれぞれの合計点を項目数の 6 で除した数を得点化した。本尺度使用に関しては作成者の許可を得た。

7. 倫理的配慮

名古屋市立大学大学院看護学研究科研究倫理委員会の承認 (承認番号 : 18023-2) および各協力施設の許可を得た。研究協力者に, 研究目的, 方法, 結果の公表について文書および口頭で説明した。説明文書には回答をもって同意とみなす旨を明記し, 調査への自由な参加, 不利益からの保護, 個人は特定されないことなどプライバシーの保護を保障することを明記した。

8. 分析方法

IAT の合計点を集計し, 正規分布をしていないことを確認した。本研究では研究対象者の IAT 合計得点を, 高得点の群と低得点の群で比較して依存度の傾向をみることにし, 中央値を基準に群分けを行った。IAT の合計得点の中央値より上をインターネット依存度高得点群, 中央値より下を低得点群とし, 属性・

インターネット利用状況については χ^2 検定, または, Mann-Whitney の U 検定を行った。その後, 有意であった項目を独立変数とし, インターネット依存度 (高得点群, 低得点群) を従属変数とし, 項目間の多重共線性を確認後, ステップワイズ法による二項ロジスティック回帰分析を行った。IAT 得点と愛着尺度・母性意識尺度の関連に関しては Mann-Whitney の U 検定を行った。統計解析には IBM SPSS Statistics Version27 を使用し, 有意水準は 5% 未満とした。

III. 結 果

1. 属性とインターネット利用状況 (表 1)

質問紙を配布した 247 人のうち 122 人の回答を得た (回収率 49.4%)。そのうち, 有効回答は 119 人 (有効回答率 97.5%) であった。母親の平均 (\pm 標準偏差) 年齢は 31.7 (\pm 4.5) 歳, 初産婦が 75 人 (63.0%), 就業形態は有職者が 71 人 (62.2%) であり, 最終学歴は大卒以上が 103 人 (86.6%), 家族形態は核家族が 113 人 (95.0%) であった。児の出生週数は 38.5 (\pm 2.1) 週, 出生体重は 2,997.5 (\pm 473.1)g, 現在の体重は 6,649.2 (\pm 853.5) g であった。

インターネット利用時に使用する機器として最も多かったのはスマートフォンで 117 人 (98.3%) であった。利用目的は天気予報が 98 人 (82.4%) と最も多く, 電子メールが 91 人 (76.5%), SNS が 86 人 (72.3%) と続いた。情報検索内容は, 子育て情報が 113 人 (95.0%) と最も多かった。利用時の状況は, 児の睡眠中が 97 人 (81.5%) と最も多く, 次いで母の就寝前 79 人 (66.4%) であり, 授乳中は 50 人 (42.0%) であった。過去 3 日間の 1 日あたりの平均利用時間は 149.9 (\pm 111.7) 分であった。

2. インターネット依存度

IAT 合計平均得点および標準偏差は 29.9 (\pm 6.7) 点であり, Cronbach の α 係数は 0.82 と高い内の一貫性を認めた。IAT の合計得点を尺度開発者より規定された依存度で分類すると, 平均的なインターネット利用者は 107 人 (89.9%), インターネットによる問題が生じている利用者は 12 人 (10.1%), 治療の必要がある利用者は 0 人 (0%) であった。インターネット依存度の高得点群は 51 人 (42.8%), 低得点群は 68 人 (57.1%) であった。

表1 属性・インターネット利用状況

				n = 119	
項目		n	(%)	平均	± 標準偏差
年齢 (歳)		119		31.7	± 4.5
出産経験	初産婦	75	(63.0)		
	経産婦	44	(37.0)		
分娩様式	経膈分娩	93	(78.2)		
	帝王切開	26	(21.8)		
就業形態	専業主婦	47	(39.5)		
	有職者	71	(62.2)		
	無回答	1			
最終学歴	高卒以下	16	(13.4)		
	大卒以上	103	(86.6)		
家族形態	拡大家族	6	(5.0)		
	核家族	113	(95.0)		
出生週数 (週)		111		38.5	± 2.1
出生体重 (g)		119		2,997.5	± 473.1
3, 4 か月時の体重 (g)		110		6,649.2	± 853.5
インターネット利用機器*	スマートフォン	117	(98.3)		
	パソコン	65	(54.6)		
	タブレット端末	23	(19.3)		
	テレビ	21	(17.6)		
	家庭用ゲーム機	14	(11.8)		
	携帯電話	3	(2.5)		
インターネット利用目的*	天気予報	98	(82.4)		
	電子メール	91	(76.5)		
	SNS	86	(72.3)		
	ニュースサイト	74	(62.2)		
	地図・テレビ番組	69	(58.0)		
	無料通話アプリ	63	(52.9)		
	商品・サービス	62	(52.1)		
	動画投稿	38	(31.9)		
	オンラインゲーム	30	(25.2)		
	ラジオ	27	(22.7)		
	クイズ	19	(16.0)		
	辞書・辞典	19	(16.0)		
	ネットオークション	14	(11.8)		
	ホームページ	10	(8.4)		
	電子政府	9	(7.6)		
	e ラーニング	6	(5.0)		
インターネットでの情報検索内容*	子育て情報	113	(95.0)		
	趣味や娯楽	100	(84.0)		
	健康や医療	92	(77.3)		
	家事	85	(71.4)		
	目的のない暇つぶし	64	(53.8)		
	仕事・研究	51	(42.9)		
インターネット利用時の状況*	児の睡眠中	97	(81.5)		
	就寝前	79	(66.4)		
	授乳中	50	(42.0)		
	起床後すぐ	28	(23.5)		
	食事中	11	(9.2)		
	仕事中	9	(7.6)		
インターネット平均利用時間*	平均利用時間/日 (分)	112		149.9	± 111.7

* : 複数回答

3. 属性・インターネット利用状況とインターネット依存度の関連 (表2, 3)

属性・インターネット利用状況とインターネット依存度の関連について、 χ^2 検定, または, Mann-Whitney

のU検定を行った結果, 「出産経験」「タブレット端末」「電子政府」「ネットオークション」「商品・サービス」「授乳中」「平均利用時間/日」($p < 0.05$), 「無料通話アプリ」「目的のない暇つぶし」($p < 0.01$) と

表 2 属性・インターネット利用状況とインターネット依存度の関連

		<i>n</i>	低得点群 (<i>n</i> = 68)	高得点群 (<i>n</i> = 51)	<i>p</i> 値		
属性	母の年齢 (歳)*	119	31.7 ± 5.1	31.8 ± 3.4 歳	0.863	<i>n.s.</i>	
	出産経験	初産婦	75	48 (64.0)	27 (36.0)	0.048	
		経産婦	44	20 (45.5)	24 (54.5)		
	分娩様式	経膈分娩	93	54 (58.1)	39 (41.9)	0.701	<i>n.s.</i>
		帝王切開	26	14 (53.8)	12 (46.2)		
	就業形態	専業主婦	47	27 (57.4)	20 (42.6)	0.680	<i>n.s.</i>
		仕事あり	71	40 (32.8)	31 (43.7)		
		無回答	1	1			
	最終学歴	高卒以下	16	12 (75.0)	4 (25.0)	0.121	<i>n.s.</i>
		大卒以上	103	56 (54.4)	47 (45.6)		
	家族形態	拡大家族	6	3 (50.0)	3 (50.0)	0.717	<i>n.s.</i>
		核家族	113	65 (57.5)	48 (42.5)		
	出生週数 (週)*	111	38.5 ± 1.9	38.6 ± 2.3 週	0.407	<i>n.s.</i>	
	出生体重 (g)*	119	2,951.0 ± 437.0	3,059.4 ± 515.1g	0.096	<i>n.s.</i>	
	3, 4 か月時の体重 (g)*	110	6,728.4 ± 892.1	6,554.1 ± 803.4g	0.297	<i>n.s.</i>	
インターネット利用機器	スマートフォン	あり	117	67 (57.3)	50 (42.7)	0.837	<i>n.s.</i>
		なし	2	1 (50.0)	1 (50.0)		
	パソコン	あり	65	35 (53.8)	30 (46.2)	0.425	<i>n.s.</i>
		なし	54	33 (61.1)	21 (38.9)		
	タブレット端末	あり	23	8 (34.8)	15 (65.2)	0.016	
		なし	96	60 (62.5)	36 (37.5)		
	テレビ	あり	21	11 (52.4)	10 (47.6)	0.627	<i>n.s.</i>
		なし	98	57 (58.2)	41 (41.8)		
	家庭用ゲーム機	あり	14	5 (35.7)	9 (64.3)	0.085	<i>n.s.</i>
		なし	105	63 (60.0)	42 (40.0)		
	携帯電話	あり	3	2 (66.7)	1 (33.3)	0.736	<i>n.s.</i>
		なし	116	66 (56.9)	50 (43.1)		
インターネット利用目的	天気予報	あり	98	53 (54.1)	45 (45.9)	0.145	<i>n.s.</i>
		なし	21	15 (71.4)	6 (28.6)		
	電子メール	あり	91	50 (54.9)	41 (45.1)	0.382	<i>n.s.</i>
		なし	28	18 (64.3)	10 (35.7)		
	SNS	あり	86	48 (55.8)	38 (44.2)	0.636	<i>n.s.</i>
		なし	33	20 (60.6)	13 (39.4)		
	ニュースサイト	あり	74	40 (54.1)	34 (45.9)	0.383	<i>n.s.</i>
		なし	45	28 (62.2)	17 (37.8)		
	地図・テレビ番組	あり	69	35 (50.7)	34 (49.3)	0.097	<i>n.s.</i>
		なし	50	33 (66.0)	17 (34.0)		
	無料通話アプリ	あり	63	29 (46.0)	34 (54.0)	0.009	
		なし	56	39 (69.6)	17 (30.4)		
	商品・サービス	あり	62	30 (48.4)	32 (51.6)	0.044	
		なし	57	38 (66.7)	19 (33.3)		
	動画投稿	あり	38	21 (55.3)	17 (44.7)	0.777	<i>n.s.</i>
		なし	81	47 (58.0)	34 (42.0)		
	オンラインゲーム	あり	30	15 (50.0)	15 (50.0)	0.361	<i>n.s.</i>
		なし	89	53 (59.6)	36 (40.4)		
	ラジオ	あり	27	13 (48.1)	14 (51.9)	0.283	<i>n.s.</i>
		なし	92	55 (59.8)	37 (40.2)		
	クイズ	あり	19	9 (47.4)	10 (52.6)	0.348	<i>n.s.</i>
		なし	100	59 (59.0)	41 (41.0)		
	辞書・辞典	あり	19	11 (57.9)	8 (42.1)	0.942	<i>n.s.</i>
		なし	100	57 (57.0)	43 (43.0)		
	ネットオークション	あり	14	4 (28.6)	10 (71.4)	0.021	
		なし	105	64 (61.0)	41 (39.0)		
	ホームページ	あり	10	4 (40.0)	6 (60.0)	0.252	<i>n.s.</i>
		なし	109	64 (58.7)	45 (41.3)		
	電子政府	あり	9	2 (22.2)	7 (77.8)	0.028	
		なし	110	66 (60.0)	44 (40.0)		
	e ラーニング	あり	6	2 (33.3)	4 (66.7)	0.227	<i>n.s.</i>
		なし	113	66 (58.4)	47 (41.6)		

表2 属性・インターネット利用状況とインターネット依存度の関連 (続き)

			<i>n</i>	低得点群 (<i>n</i> =68)	高得点群 (<i>n</i> =51)	<i>p</i> 値	
インターネットでの情報 検索内容	子育て情報	あり	113	64 (56.6)	49 (43.4)	0.629	<i>n.s.</i>
		なし	6	4 (66.7)	2 (33.3)		
	趣味や娯楽	あり	100	57 (57.0)	43 (43.0)	0.942	<i>n.s.</i>
		なし	19	11 (57.9)	8 (42.1)		
	健康や医療	あり	92	49 (53.3)	43 (46.7)	0.114	<i>n.s.</i>
		なし	27	19 (70.4)	8 (29.6)		
	家事	あり	85	44 (51.8)	41 (48.2)	0.061	<i>n.s.</i>
		なし	34	24 (70.6)	10 (29.4)		
	目的のない暇つぶし	あり	64	27 (42.2)	37 (57.8)	<0.001	
		なし	55	41 (74.5)	14 (25.5)		
仕事・研究	あり	51	27 (52.9)	24 (47.1)	0.422	<i>n.s.</i>	
	なし	68	41 (60.3)	27 (39.7)			
インターネット利用時の 状況	児の睡眠中	あり	97	52 (53.6)	45 (46.4)	0.102	<i>n.s.</i>
		なし	22	16 (72.7)	6 (27.3)		
	就寝前	あり	79	43 (54.4)	36 (45.6)	0.401	<i>n.s.</i>
		なし	40	25 (62.5)	15 (37.5)		
	授乳中	あり	50	23 (46.0)	27 (54.0)	0.037	
		なし	69	45 (65.2)	24 (34.8)		
	起床後すぐ	あり	28	14 (50.0)	14 (50.0)	0.382	<i>n.s.</i>
		なし	91	54 (59.3)	37 (40.7)		
	食事中	あり	11	6 (54.5)	5 (45.5)	0.855	<i>n.s.</i>
		なし	108	62 (57.4)	46 (42.6)		
作事中	あり	9	3 (33.3)	6 (66.7)	0.133	<i>n.s.</i>	
	なし	110	65 (59.1)	45 (40.9)			
インターネット利用時間	平均利用時間/日 (分)*		112	118.6±66.4	192.8±143.6	0.004	

χ^2 検定 ($df=1$), * : Mann-Whitney の *U* 検定

n.s. : 有意差なし

表3 ロジスティック回帰分析による
属性・インターネット利用状況とインターネット依存度の関連 (調整オッズ比)

変数	β	Wald	<i>p</i> 値	オッズ比	95% 信頼区間	
					下限	上限
出産経験	2.18	12.89	<0.001	8.85	2.69	29.11
無料通話アプリ	1.08	4.41	0.036	2.93	1.08	8.01
目的のない暇つぶし	1.73	11.19	0.001	5.65	2.05	15.57
平均利用時間/日	0.83	12.77	<0.001	2.28	1.45	3.59

Hosmer and Lemeshow 適合度検定 χ^2 ($df=6$) = 4.69, $p=0.584$

有意な関連がみられた。上記9つの項目同士の Spearman の順位相関係数は-0.40~0.29であり、項目間に多重共線性を有していないことを確認し、ステップワイズ法による二項ロジスティック回帰分析に投入した結果、検定力は0.72~0.99であった。インターネット依存度(高得点群, 低得点群)と関連が見られた項目は、「出産経験」(調整オッズ比 (OR) : 8.85, 95% 信頼区間 (CI) : 2.69-29.11), 「無料通話アプリ」(OR : 2.93, CI : 1.08-8.01), 「目的のない暇つぶし」(OR : 5.65, CI : 2.05-15.57), 「平均利用時間/日」(OR : 2.28, CI : 1.45-3.59)であった。

4. インターネット依存度と愛着・母性意識の関連 (表4)

愛着尺度の合計点の平均 (SD) は 94.2 (± 9.5) 点であり, Cronbach の α 係数は 0.93 と高い内的一貫性を認めた。母性意識尺度における MP 尺度では 3.2 (± 0.6) 点であり, MN 尺度では 1.9 (± 0.5) 点であった。Cronbach の α 係数は MP 尺度 0.84, MN 尺度 0.71 であり, 内的一貫性が高かった。

インターネット依存度(高得点群, 低得点群)と愛着および母性意識の得点との関連では, 愛着尺度・母性意識尺度の MP 尺度は有意差はみられなかったが, 母性意識尺度の MN 尺度ではインターネット依存度

表 4 インターネット依存度と愛着・母性意識の関連

	愛着			母性意識 肯定 (MP)			母性意識 否定 (MN)		
	低得点群 (n=68)	高得点群 (n=51)	p 値	低得点群 (n=67)	高得点群 (n=50)	p 値	低得点群 (n=67)	高得点群 (n=50)	p 値
	中央値 (範囲)	中央値 (範囲)		中央値 (範囲)	中央値 (範囲)		中央値 (範囲)	中央値 (範囲)	
インターネット 依存度	98.2 (61-104)	96.5 (65-104)	0.486 n.s.	3.3 (8-24)	3.3 (10-24)	0.612 n.s.	1.8 (6-17)	2.0 (6-17)	0.021

Mann-Whitney の U 検定。n.s. : 有意差なし

の高得点群の方が低得点群よりも有意に得点が高かった ($p < 0.05$)。

IV. 考 察

1. 研究対象者の背景とインターネット利用状況

研究対象者は主にスマートフォンから、さまざまな目的でインターネットを利用していることがわかった。

インターネット利用状況は、総務省による令和 4 年通信利用動向調査¹⁾では全世代中 88.6% がスマートフォンを使用している。研究対象者と同世代である 30 代の使用率は 99.4% であり、研究対象者は 98.3% とほぼ同様に利用率が高いことがわかる。

インターネットの利用目的としては、総務省の調査と比べて研究対象者は「SNS」の利用率が顕著に高かった。家に閉じこもりがちで人との交流が激減しやすい子育て中の母親にとって、SNS などのコミュニケーションツールは気軽な交信手段であり、ストレス解消法として利用する³⁾母親も多いと考えられる。

インターネットでの検索の内容は、「子育て情報」が最も多かった。近年ではスマートフォンでの利用を主軸とした子育てに関するアプリケーションが充実しており、育児に関する情報をインターネットから収集しているという母親が多く¹⁷⁾、研究対象者も同様であると推測される。

2. インターネット依存度

インターネットによる問題が生じている利用者は本研究では 10.1% であったが、研究対象者と同世代である 30 代の就労者¹⁸⁾は約 4.9% であるため、研究対象者の方が割合が高く、子育てにより依存が高まる可能性があった。また、1 歳児をもつ母親¹⁹⁾と比較すると、本研究の方がインターネットによる問題が生じている利用者の割合が高いことが明らかになった。これは、3, 4 か月児の母親は外出しにくく、直接他者とコミュニ

ケーションが取りづらい環境であり、他の年齢の母親よりインターネットを育児相談相手として選んでいる人が多い²⁰⁾と考えられる。加えて。行動範囲が広がり目が離せない 1 歳児に比べ、3, 4 か月児では睡眠時間が長く寝返りをうたないと認識し、目を離してインターネットを利用しても大丈夫だと考える母親が多いと推察された。

3. 属性・インターネット利用状況とインターネット依存度の関連

インターネット依存度との有意な関連が見られた要因は、「出産経験」「無料通話アプリ」「目的のない暇つぶし」「平均利用時間/日」の 4 項目があげられ、現在の子育て背景とのつながりが推察された。なお、本研究のサンプル数 119 人に対し、各項目に対しての検定力が 0.72~0.99 と十分でない項目があるが、本研究の研究目的や二項ロジスティック回帰分析をするにあたって説明変数の数に対する最低限必要なイベント発生サンプル数は満たしており、分析の根拠とした。

「出産経験」では、初産婦より経産婦の方が、インターネット依存度が高かった。経産婦の方が依存度が高かった理由としては、経産婦が過去の子育て経験から子育てに余裕ができ、子育て以外の利用目的で初産婦よりインターネットを利用している可能性が考えられるが、出産経験別に母親がどのような内容・用途でインターネットを利用しているかを調査する必要がある。

「無料通話アプリ」は、利用する方が依存度が高かった。外出しにくい育児中の母親にとって有用なアプリであるが、コミュニケーション志向はインターネットの依存的な利用をもたらす²¹⁾との指摘もあり、インターネット依存の関連があった可能性がある。

「目的のない暇つぶし」は利用する方が依存度が高かった。隙間時間にインターネットができ、時間をつ

ぶしやすいというスマートフォンの普及により受け身の利用になり、本人も気づかぬうちに深刻な依存に陥りかねない²²⁾ため、注意が必要であると考えられる。

「インターネット平均利用時間」は、長いほど依存度が高かった。近年では、日々の育児状況がインターネット上で一元管理される²³⁾など、育児関連でインターネットを利用する機会が多い。そして、特に3、4か月児は、授乳時間や、外出の際の移動時などに両手が空く抱っこ紐を使うことが多く、比較的母親の手が空くため、スマートフォンなどの端末でインターネットを利用しやすい環境である¹¹⁾と推察される。そのため、育児における現代の環境がインターネット平均利用時間を長くし、インターネット依存度と関連しているのではないかと推察され、インターネットを利用する時間について見直しが必要であると考えられる。

4. インターネット依存度と愛着・母性意識の関連

本研究においては、インターネット依存度とMN尺度には関連が見られた。インターネットは同じ立場の母親が発信する膨大なケースの子育て状況を探ることができる^{4,23)}が、インターネット上の他の母親と自身を比べることで、MN尺度項目にある「育児への負担感」、「孤独感」、「自信のなさ」などの否定的な感情を強めることに繋がるのではないかと推察される。よって、インターネットは孤独な子育てからの脱却やストレス解消に効果的なツールではあるが、没頭、依存しすぎることによって母性意識に影響を及ぼす可能性が考えられる。母性意識否定項目の得点が高いほど虐待のリスクファクターである²⁴⁾との指摘もあるため、母親自身がインターネットと適切な距離を保てるようサポートが必要であると考えられる。

5. 研究の限界と今後の課題

本研究はA政令指定都市で質問紙調査をしており、A市の3、4か月健診を受診する母親という母集団に対するサンプル数は少ないことに加えて、検定力が0.72~0.99と十分とは言えないこと、属性に偏りがあることから一般化することには限界がある。回収率の低さは、健診終了後に質問紙を配布したため、協力が得られにくかった可能性がある。また、本来、第一種の過誤を減らすために有意差の調整が必要であったが、今回は有意水準の調整に限界があったため、結果を記述するにとどめた。今後は、有意差調整を行い、より

信頼性の高い結果を得ることを課題とする。加えて、研究対象者の拡大、インターネット依存に関するより詳細な要因の検討と要因間の関係性の追求も課題とされる。

V. 結 論

インターネット依存度には経産婦、無料通話アプリの利用、目的のない暇つぶしでの利用、平均利用時間が長いこと、が示された。また、インターネット依存度は高い群のほうが低い群よりも母性意識の否定的感情に関連し、得点が高かった。そのため、インターネットへ没頭することがないように、適切な距離を保てるような支援の検討が求められる。

謝 辞

本研究を行うにあたり、アンケートに御協力頂きました協力者の皆様と、研究にご協力頂きました保健センターの皆様にご心よりお礼申し上げます。

本研究の分担について以下に記載する。研究の構想・デザインは原納・堀田で行った。データの収集は原納が行った。データの分析は原納・遠藤で行い、解釈は原納、遠藤、堀田で行った。研究論文のドラフトの執筆については原納が行い、遠藤・堀田の学術的内容に対する批判的校閲を受け、研究論文最終版の確認は著者全員で行った。なお、著者全員論文の説明責任を負うことへ同意している。

学会発表・研究費助成等

本論文は、原納彰子が令和元年度名古屋市立大学大学院看護学研究科修士論文として提出した論文の一部を修正したものであり、2021年1月2nd International Conference on Public Health and Well Being (開催地：クアラルンプール)において発表した。

利益相反

論文発表内容に関連し、著者らに開示すべきCOI関係にある企業などはありません。

文 献

- 1) 総務省 情報流通行政局 情報通信政策課. “令和4年通信利用動向調査の結果”. <https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=0200356&tstat=000001165891&cycle=0&year=20210&month=0&tclass1=000001165893> (参照 2023.02.13)
- 2) Sevil C, Ayse A, Handan B, et al. “Unexpected

- event”: having an infants with cleft lip and/or palate. *Congenital Anomalies* 2021; 61(2): 38-45.
- 3) 後藤 恵. 育児中の母子関係におけるストレスとその解消法～虐待の予防に向けて～. *病院・地域精神医学* 2012; 54(4): 457-458.
 - 4) 山下清美, 川浦康至, 川上善郎, 他. ウェブログの心理学. 東京: NTT 出版, 2005.
 - 5) 井田歩美, 合田典子, 片岡久美恵. 子育て情報に関する母親のインターネット利用についての実態調査: 市町村子育て支援事業に参加した乳児の母親へのアンケート結果より. *母性衛生* 2013; 53(4): 427-436.
 - 6) 瀧 一世. インターネット依存とその測定について: インターネット依存傾向尺度作成の試み. *奈良大学大学院研究年報* 2013; 18: 83-91.
 - 7) 山口扶弥, 田川紀美子, 藤野成美. 乳児をもつ母親の育児不安に関する縦断的研究: 経産婦と初産婦の傾向と支援対策の検討. *広島都市学園大学雑誌. 健康科学と人間形成* 2017; 3: 13-23.
 - 8) 羽室俊子. *看護学大系 3 看護と人間 1*. 東京: 日本看護協会出版会, 1996: pp 173-175.
 - 9) 花沢誠一. *母性心理学*. 東京: 医学書院, 1992: pp 12-14.
 - 10) 新道幸恵, 和田サヨ子. 妊産褥婦の母性意識の形成とその援助—母親役割取得過程との関連において. *助産婦雑誌* 1987; 41(1): 77-81.
 - 11) 橋元良明, 久保隅 綾, 大野志郎. 育児と ICT: 乳幼児のスマホ依存, 育児中のデジタル機器利用, 育児ストレス. *東京大学大学院情報学環情報学研究 調査研究編* 2019; 35: 53-103.
 - 12) 伊藤将晃. 大学生のインターネット中毒傾向に関する研究. *臨床教育心理学研究* 2009; 35: 9-14.
 - 13) Müller ME. A questionnaire to measure mother-to-infant attachment. *Journal of Nursing Measurement* 1994; 2(2): 129-141.
 - 14) Young KS. *Caught in the net: How to recognize the signs of internet addiction and winning strategy for recovery*. New York: Wiley, 1998.
 - 15) 中島登美子. 母親の愛着尺度日本版の信頼性・妥当性の検討. *日本看護科学会誌* 2001; 21(1): 1-8.
 - 16) 大日向雅美. 母性の研究—その形成と変容の過程: 伝統的母性観への反証. 東京: 川島書店, 1988.
 - 17) 中島千英子, 永井由美子. 母親の育児情報源としての SNS 利用に関する調査. *大阪教育大学紀要 人文社会科学・自然科学* 2020; 68: 41-49.
 - 18) Tsumura H, Kanda H, Sugaya N, et al. Prevalence and risk factors of internet addiction among employed adults in Japan. *Journal of Epidemiology* 2018; 28(3-4): 202-206.
 - 19) 藤岡奈美, 糸瀬聡美, 大竹李奈, 他. 1 歳児の母親のインターネット使用状況が育児感情におよぼす影響. *母性衛生* 2015; 56(1): 128-136.
 - 20) 山崎さやか, 篠原亮次, 秋山有佳, 他. 乳幼児を持つ母親の育児不安と日常の育児相談相手との関連 健やか親子 21 最終評価の全国調査より. *日本公衆衛生雑誌* 2018; 65(7): 334-346.
 - 21) 澤井智哉, 福岡欣治. 大学生のインターネット利用動機とインターネット依存傾向の関係 自己制御および孤独感との交互作用を含めて. *川崎医療福祉学会誌* 2018; 28(1): 77-87.
 - 22) 遠藤美季. 0 歳からのスマホ利用と親のルールづくり. *児童心理* 2019; 73(2): 1237-1329.
 - 23) 石川結貴. 「スマホ漬け」が招く子育ての危機 (特集 スマホのルール). *児童心理* 2019; 73(2): 171-175.
 - 24) 大原美知子. 母親の虐待行動とリスクファクターの検討: 首都圏在住で幼児をもつ母親への児童虐待調査から. *社会福祉学* 2003; 43(2): 46-57.

[Summary]

This study aimed to determine the relationship between Internet use and attachment and the attitudes of mothers of 3-4-month-old infants. A random self-administered questionnaire survey was conducted from May to July 2019 among 247 mothers of infants who underwent a medical examination in city A. The participants' demographics, Internet use, dependence (using the Internet addiction test), and attachment, and mothers' awareness of the Internet were assessed. Valid responses from 119 (97.5%) of the 122 (49.4%) participants were analyzed. After univariate analysis, logistic regression analysis was conducted with the collected attributes and Internet use as independent variables and IAT as the dependent variable. The relationship between the IAT, attachment scale, and maternal awareness scale was examined using the Mann-Whitney *U* test, and the results of IAT scores showed that 107 participants (89.9%) were average users and 12 (10.1%) were users with problems. Although a few participants had problems with Internet use, childbearing experience, free phone apps, passing time, and average hours of use daily influenced their Internet addiction. There was an association between negative feelings toward motherhood and Internet addiction ($p < 0.05$). Internet addiction may be caused by the modern environment, in which the Internet is closely related to child-rearing, and characteristics of the Internet.

Key words: Internet use, Attachment, Maternal Consciousness, Mothers, Infants